MACF 礼拝説教要旨
2023 年 6 月 11 日
「気を落とさずに」

ルカによる福音書 17 章
「やもめと裁判官」のたとえ

1 イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話
された。
2「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。
3 ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守って
ください』と言っていた。
4 裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後に考えた。『自分は神など畏れな
いし、人を人とも思わない。
5 しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひ
っきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』」
6 それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。
7 まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほう
っておかれることがあろうか。
8 言っておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見い
だすだろうか。」
＊＊＊＊

1）気を落とさずに
人生における「気落ちの種」はどこにでも転がっています。
失望、落胆、そして不信、批判、絶望へと向かっていくことがよくあります。
「つまずき」「困難」はどこにでもあるようです。
わたしたちは、何にでもつまずきます。
イエス様は弟子たちに「気を落とさないように」と励ましています。
そのためのたとえが語られています。

2）「やもめと裁判官」のたとえ

やもめは、もうどこにも助けを求めることができず、その宛もありませんでした。
そこで裁判官のところに行って「相手を裁いて、わたしを守ってください」と
訴えます。すでに、何度も通っていたようです。繰り返し、繰り返し、同じ求めを
しています。
すること、この裁判官は決していわゆる人格者ではなさそうですが、
『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。
5 しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひ
っきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』」
と呟いて裁判を実行することになりました。

3）神様の応答
6 それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。
7 まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほう
っておかれることがあろうか。
8 言っておくが、神は速やかに裁いてくださる

こんなに人格的には欠けのおおい裁判官でさえ、寡婦の「助けて」の
声を聞き、ことを起こしてくれるわけだから、ましてや神が、信頼し
助けを求めるあなたがたのことを無視するはずがないではないか。

４）気を落とさずに継続的に「助け」を求める姿勢を保てるか

8 言っておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」

つまり、気を落とさずに継続的に助けを求める姿勢こそ「信仰」なのだということになるかもしれません。
ここでの人の子が来るとき、というのは、イエス様の来臨のときかもしれませんし、世の終わりのときということかもしれません。
つまり「絶望しやすい」状況が増えてくるということにもつながっているかもしれません。

便利な時代になり、何でも自分で管理でき、社会の雰囲気が「自己責任」とか「自立」を迫る時代に、果たして「助けて」と言って良いのか。
「待つことなどしていて良いのか」という疑問が心に湧いてきてしまい
すぐに諦めてしまいやすいのです。

誰かに「助けて」が言えることこそ「健全な社会」のしるしだと思います。さらに、神様に対して信頼をおいて「助けて」と「感謝」を継続的にお伝えできることの喜びと心強さを味わっていただきたいと思います。

その上で、「今日」を精一杯生きる姿勢を大切にすることも、信仰の継続のためにとても大事な要素となります。不安や心配は「明日、来年、将来」のことが案外多いからです。
今日の心配を丁寧に見つめ、それについて、しっかり抑えていけると
良いですね。それが生きる意欲に繋がり、信仰の継続につながって
いきます。
ぜひ、しっかり食事をし、睡眠をとり、今日の日課をわきまえつつ、
気を落とさずに生きていきましょう。

＊＊＊

MACF 礼拝映像は

https://youtu.be/naYvAiWMSJ8